

M35a 高緯度 X 線ア - ケ - ドの振る舞い(I)(I)

藤崎浩三、内田豊、森田諭、広瀬重信、Samuel B.Cable (東京理科大学)

前回までに、Feb 24-25,1993 の X 線アーケードフォーメーションは (イ) プレイベントのコロナ構造が四重極的であり (ロ) 磁場が (平均場の) 反転線付近で mixed になっており (ハ) 上昇する背骨構造が巨大カスプ的になること、これにヒントを得て Jan 25,1992 の巨大カスプを調べると従来のモデルで考えられない特徴があること、が判った。

今回 Feb 24-25,1993 を新たに調べた結果、それが二重アーケード、アーケードトップの内側の構造等予期しない特徴を持つ事が示された。ここでは同種の現象を更に解析し、この種の X 線アーケード形成では (イ)、(ロ) 等が共通に見られることを示す。